
KARMA

戍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

KARMA

【Nコード】

N5365F

【作者名】

戌

【あらすじ】

「日本人平均能力向上計画」聞こえはいいこの計画のうらには大量殺戮が隠れていた。そして殺される対象に入っていた桃太郎は・・。

TEST 0 開幕

市立A中学校三年一組もはやまたろう桃山太郎

受験シーズンによく聞くフレーズだ。

みんながみんな似たようなフレーズを耳にするこの時期であるにもかかわらず太郎の所属するクラスでは動物園の猿山のような状態だった。

黒板にチョークで数式を書く女の先生にセクハラまがいの暴言を浴びせる者、クールぶってダーツで遊ぶ者、それを見てキヤーキヤーとほざく者……。

紙飛行機が飛び交う天井を見上げてはため息をつく毎日だ。

「桃太郎。おい桃太郎。」

今、太郎の後ろで桃太郎と呼んでいる男子は吉備きび団子、このクラスの少数派のまじめな奴だった。

授業中に人に話しかけてきているところでまじめではないのかもしれないがこのクラスではノートさえ取っていればとてもまじめに見えるのだ。しかし団子はとても頭がよく、学年ナンバー1の成績を誇る。

しかしまじめすぎると不良にちよっかいを出されてはからかわれる。ほどほどにすればいいということだ。

「桃太郎。返事しろよ。」

「だから、その桃太郎っていうのやめる。」

「桃山太郎だから桃太郎、いいだろ。」

「よくない。それにおまえだってきびダンゴ……」

「静かにしてください。」

俺の声を遮るように教室に凜とした声が響き渡った。

こんなことを言えば明日からいじめられるのが当たり前だが、例外としてこんな発言をしても許される者がいる。

いぬかいあやね犬養彩音。学級委員長で成績優秀学年ナンバー2。容姿もよく、誰

からも好かれ、一部の男子からは女神とも称されるほどだ。

「でたよ、ワンちゃん雄叫び。」

いつも、どうしてこいつは犬養より成績がいいのかわからない。二人ともオール5で、テストの点のわずかな差でいつも団子が勝つ。勝利の女神でもついているのか。敵は女神なのに。

六時間目の授業が終わり、掃除をさぼるために団子と一緒に屋上に向かった。屋上は普通解放しないのだが、鍵がなくなり入れなくなってしまった。しかし、鍵は俺がすぐに見つけた。

そこで、少しの間拝借することにした。入れないから不良も来ない。先生も来ない。実にいいところだ。

そのとき、屋上の前のドアのところで人影があった。

すかさず太郎と団子は身を隠した。

「何か用かな。」

一人は犬養だった。

で、もじもじしてる男のほうが…知らない奴だな。どうやら不良っぽいな。

犬養が女神スマイルでその不良男子を見つめると、不良男子は紅潮してしまった。

「僕と付き合ってください。」

犬養の空気が変わった。

不良なのに一人称が僕って…。

犬養は不良男子の恥ずかしさが伝染したのか真っ赤だった。

「ごめん。」

そう言うつと犬養は顔をそむけた。

「そっか…そうだな。」

不良男子はとぼとぼと階段を降りてきた。もちろん太郎たちは見つかった。

「てめえら見てんだよ！ぶつとばすぞ！コラ！」

俺はもじもじしながら告白していたところと今のギャップに笑いそうになった。

必死に笑いをこらえていると

「てめえ！何笑ってんだ！」

まだ笑ってないよ、と思っていると後ろから笑い声がした。

「覚えてろ。」

と、捨て台詞をきれいに吐いて不良男子は階段を降りて行った。

「団子・・・。」

「わ、悪い。」

「あいつ誰だ。」

「3組の迫田君。」

階段に凜とした声が響いた。

「犬養・・・。」

「さ、わかったら帰った帰った。掃除はサボっちゃだめですよ。」

こうして迫田ことザコ田の告白を目撃した俺達は犬養に促されて教室へ戻った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5365f/>

KARMA

2010年10月10日06時32分発行